



石神井高校同窓会誌
「きずな」第49号
平成12年5月発行

母校創立六十周年 記念講演会開催

本年は青山において石神井高校の前身である旧制府立十四中が創立されて、六十周年に当たります。同窓会ではこれを記念し、同窓会総会の開かれる六月二十四日、同窓生でもある共立女子大学学長の阿部謹也氏をお迎えし、現役高校生の諸君のための講演

阿部氏は、石神井高校第四回生として卒業後、一橋大学に進まれました。卒業後も学究の道を歩まれ、一昨年一橋大学学長を退官され、現在は共立女子大・共立女子短大の学長をつとめておられます。

ともすれば殺伐として希望がないのでは、といわれる現在の若い人たちに、「二十歳までに考えること」と題して、ご自分の石神井時代などを振り返りながらお話をしたい。ただきたいと、同窓会役員でお願いしましたところ、快諾をいただき、今回の講演会の開催となりました。現役石神井生の諸君



阿部謹也氏
1958年一橋大学経済学部卒業
小樽商科大学、東京経済大学教授を歴任
79年より一橋大学教授、92年より一橋大学長
97年より国立大学協会会長
98年11月退官され、現在・共立女子大学長

は全校生を対象としますが、同窓生の方も参加ご希望の方は是非お越しください。午前十時より、本校体育館で開催します。

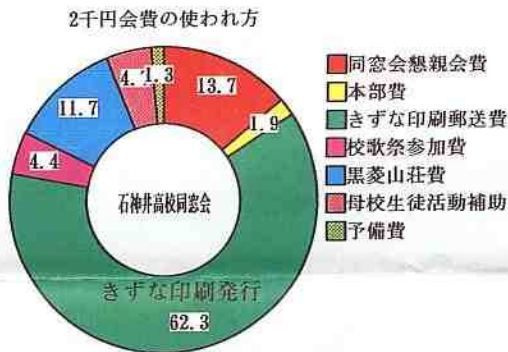
今年の総会・懇親会は
6月24日!

同窓会の年会費をもっと振り込んで下さい!

同窓会副会長 城 和裕

現在、都立高校は石原都知事の「鶴の一声」で生徒会活動予算等が激減しました。野球部ではボール代にも事欠く実態となっています。同窓会では現役生が少しでも活発に活動できるように色々な支援を行っております。しかし、増え続ける約20,000人の同窓生に届ける『きずな』の発行、郵送費に別図の円グラフのように大きな予算が掛かるため、現在のような会費収入では、母校生徒活動補助や黒菱山荘補助を増やすことが出来ません。

これまで未払いの方でも、過去にさかのぼって振り込みする必要はありませんので、郵便局へ行き今年度分「2,000円」をお振り込み下さい。



黒菱基金は973,850円集まりました

昨年よりスタートした黒菱山荘基金は、日本中を覆う不況ムードの中ですが、同窓生、旧職員の皆様より本年五月の時点で九十七万円余りの寄付をお寄せいただきました。ご存じのように黒菱山荘は建築以来四十年近い月日が流れており、その維持には多くの費用が掛かります。同窓生の皆様には、黒菱山荘への応援として基金へのさらなるご寄付をお願いいたします。



雪の夜の“幻想的な?” 黒菱山荘

同窓会名簿が発刊されます

かねてより計画されていた同窓会名簿が、本年十月を目標に発刊されます。すでに同窓生の皆様にはお手元にご案内が届いていると思われませんが、同窓会の契約業者である株式会社サラトに制作業務を委託しておりますので、ご希望の方は直接サラトまでお申し込みください。同窓会では販売いたしません。

1999-2000 石神井&同窓会 TOPICS

体育祭



同窓会総会・懇親会



楽しい懇親会にもどうぞご参加ください。会費はいまどき驚きの1000円！しかもフリードリンク、バイク形式の気さくなパーティ。例年、石吹(ブラスバンド)の参加で校歌を大合唱、大いに盛り上がっています。6/24日(土)母校多目的室で12:30より開催します。

校歌祭

お問い合わせは
03-3991-3586
高橋(20回)まで

東京校歌祭とは？
中学(ナンバーズスクール)の校歌を卒業生が歌う集いとして平成五年に発足しました。本校は旧制府立十四中をルーツに持つことからこのお祭りに参加しております。今年十月十四日に日比谷公会堂で開催されます。今年もなるべく多くの同窓生の方々の参加をお待ちしております。

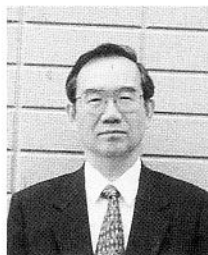
東京校歌祭とは？



創立六十周年によせて

校長 外池 武嗣

会員の皆様におかれましては、常日頃、母校に温かいご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございます。おかげさまで本校は今年で創立六十周年を迎えます。八年前に五十周年記念式典を体育施設落成記念を兼ねて開催したと



公式の六十周年記念式典は行いませんが、六月二十四日(土)に同窓会主催

ぬくもり

同窓会会長 高橋 勇(中二回)

東京では桜の開花が予想より遅れ、中学校の入学式に八分咲きとなりました。会員各位にはご清栄のこととお慶び申し上げます。

本年は千年に一度のミレニアム(二〇〇〇年)と母校の創立六十周年と云う記念すべき年がらに当たります。二十一世紀への橋渡しの年でもある現在、こんな事を思いました。

十九世紀が「鉄道革命」の時代、二十世紀が「自動車・航空革命」の時代、そして



二十一世紀は「情報・環境革命」の時代と云われています。デジタル通信化等々の開発により、インターネット

で記念講演会が開催される予定です。

共立大学学長の阿部先生の方のお話を伺い、在校生が伝統ある本校の歩みについて振り返る機会をもたらしと考えております。

ご承知のように校舎は昭和四十年前後に建てられたもので老朽化しております。現在、東京都の財政難の中では全面改築は望み薄です。近く予定されている耐震補強工事において可能な限り付随する改修を含めて手を入れてもらえるよう図っているところです。昨年の文化祭では体育館での演奏会の際、集中した生徒の重みで床が沈んでしまい、床を支えている鉄棒を相当数交換し直し、修復するというハプニングも

を利用しマイコン端末や家庭のTVを通して全世界にアクセス出来たり、商取引出来たりと、大きく社会情勢が変化して行きます。私などには追いつけない程の変化速度です。

ところで、孫娘がゲームソフトを使って液晶画面に夢中になって取り組んでいるのを見て、ふと、リアルな映像画面と操作している人間との関係に一抹の危惧を感じました。それは画面を通しての「疑似体験」と「実体験」との混同です。映像の生物には「生命(いのち)」がありません。換言すれば映像上の生物からは「ぬくもり」を感じません。その映像や通信画面とのみ対峙していると、実社会でも「ぬくもり」を失った対人関係になりはしないでしょうか。動植物をはじめとして、特に人間が生物であり、個人だけでは生きていけない以上、家庭も、社会も、「生きていく」「生かされ

ありました。

部活動は伝統的に活発であり、都立高校の中では部員の加入率は高く、運動部を中心に好成績をあげております。昨秋はサッカー部が都の代表ブロックで三位にまで勝ち進みました。文化部もブラスバンドや軽音楽等、賞を獲得しており、どの部活動も教職員やOBの奉仕的な指導で支えられている部分が見られます。

一方、この春の大学等への進学状況は好調で、現役の四年制大学合格者数は前年の六十%増となり、在校生の励みにもなると思います。自由闊達な校風は生きていますが、「自律や責任の重視」も合わせた指導

ている」と言うぬくもりの触れ合いを失わないで欲しいと思います。同窓生各位とも正にぬくもりのあるきずなで結ばれた仲間でありたいと願っています。

◎母校六十周年記念行事について

役員・幹事会での話し合いと学校側の賛同を得て、母校の在校生を対象として初めての記念講演会を実施いたします。詳細は次頁をご覧ください。講演内容や在校生の反響等については次号に掲載する予定しております。

◎同窓会名簿の発刊について

一九九四年度版を発刊後、母校卒業生の同窓生総数は二万名を越えました。五年毎に発刊を予定しておりましたが、諸般の都合により本年十月発刊をめざして作業が進行中です。現在フリーダイヤルで資料整備

導を行っています。

その他、今年から都の学校運営連絡協議会試行校の一つとなり、地域に開かれた学校への期待に込められるよう本校なりの形を創っていければと考えております。高校改革や学校運営の改善等、多くの課題が伝えられる中で、二十一世紀への展望をもちながら生徒、教職員が生き生きと過ごせる学校であってほしいと願っています。今後とも末永くご支援をお願いし、学校の近況報告をもつてご挨拶いたします。

の確認が出来ますので、前回の「きずな」に行方不明者さがしキャンペーン「あの人はどこ？」の掲載者の消息をご存知の方はご連絡くださるようお願い致します。

◎同窓会を魅力あるものに

年齢層の異なる同窓会の宿命とも言える課題が、同窓生一同が集う定期総会にどんな行事を組んだら多数の参加を望めるのか、魅力ある同窓会行事を模索中でもあります。具体的なご意見や提案をしていただけると幸いです。

なお、本年度の行事予定等については議案をご覧ください。

末筆になりましたが、会員各位のご健勝ご多幸と、母校「石神井」の益々の隆盛を祈念いたします。

定期総会開催のお知らせ

同窓会規約第九条にもとづき平成12年度定期総会を下記のとおり開催しますので、召集いたします。

平成12年4月吉日 同窓会会長 高橋 勇
記

日時 平成12年6月24日(土) 午前9:00より

場所 母校会議室

- 議事 第一号議案 平成11年度事業報告
- 第二号議案 同上の会計収支決算報告及び会計監査報告
- 第三号議案 平成12年度事業計画案
- 第四号議案 同上の会計予算案

以上

母校創立60周年 記念同窓会講演会のご案内

日時: 6月24日(土) AM10:00~11:45
場所: 母校体育館

講演 阿部謹也氏 共立女子大学長
元一橋大学学長
テーマ『20歳までに考えること』

懇親会のご案内

母校多目的室 PM12:30~PM2:30
会費 ¥1,000 当日徴収

総会・講演会終了後、12:30より恩師の先生方にもご参加いただき恒例の懇親会を持ちますので、会員各位の多数の参加をお待ちしております。

- 第1号 議案 平成11年度事業報告
平成11年度(1999年)平成11年4月1日~平成12年3月31日
<平成11年(1999年)>
4月9日(金) 母校入学式に会長が来賓として臨席する。
- 4月10日(土) 平成10年度会計決算と会計監査を行う。
- 4月17日(土) 役員会 ☆会計報告と次年度予算案 ☆総会の役割分担 ☆黒菱山荘基金 ☆会員名簿の発刊 ☆母校創立60周年記念行事
- 5月6日(日) 母校体育祭に会長が来賓として臨席する。 ☆学校・父母と教師の会・同窓会の各会長三者協議で黒菱山荘基金募集について合意する。
- 5月 同窓会会報誌「きずな」第48号を発刊し会員に送付する。
- 6月12日(土) 平成11年度定期総会及び母校の恩師を招いての懇親会を開催する。定期総会議事はすべて原案どおり可決承認される(議案は「きずな」に掲載)。
- 6月24日(木) 総会反省会、「きずな」発刊打ち上げ会を実施する。
- 8月5日(木) 会員名簿の発刊について担当役員との打ち合わせを行う。
- 8月20日(金) 母校にて同上会員名簿発注予定業者との話し合いを行う。
- 9月2日(木) 幹事長と幹事会開催について打ち合わせを行う。
- 9月18日(木) 幹事会を「あおやま石神井クラブ」にて開催する。 ☆会員名簿発刊 ☆周年記念行事 ☆校歌祭 ☆黒菱山荘基金
- 10月21日(木) 同窓会名簿発行業者「榎サルト」と会員名簿発行契約を締結する(母校校長室にて、担当役員立会い)。 2000年10月発刊予定
- 12月11日(土) 第7回東京校歌祭(日比谷公会堂)にプラスバンド有志を交えて参加する。

- <平成12年(2000年)>
1月 榎サルトより同窓会名での会員名簿発行案内と名簿記載事項調査の往復はがきを送付する。
- 1月29日(土) 役員・幹事会の新年会(青山あおしま) ☆会員名簿発行について ☆60周年行事の講演会について ☆黒菱山荘基金の募集状況について
- 3月10日(金) 母校卒業式に会長が来賓として臨席し祝辞を述べる。
- 3月17日(金) 会計と本年度会計の決算と監査期日の打ち合わせを行う。
- 第3号議案 平成12年度事業計画(案)
◎本年度は母校創立60周年に当たりますので、記念講演会を在校生を対象に実施します。
◎同窓会会員名簿(2000年版)を発刊します。
◎例年どおりの定例事業を行います。
☆会報「きずな」第49号(カラー印刷ページ入り)を発行します。
☆インターネットに「石神井高校同窓会ホームページ」の開設を継続します。
☆総会終了後の懇親会を実施します。
☆第8回「東京校歌祭」に参加します。会員各位の多数参加を期待しています。 本年はリニューアルした日比谷公会堂で、10月14日(土)に開催予定です。
☆黒菱山荘の三者協議は継続します。

黒菱山荘基本則第6条の山荘長の選任について

千賀 可一山荘長の辞任に伴う後任の山荘長として、浦川伸一郎(高校32回)を選任しました(平成12年4月1日より)のでお知らせいたします。

平成11年度 会計収支決算
(平成11年4月1日~平成12年3月31日)

	予算	決算	増減	備考
1) 収入の部	6,083,209	5,791,172	▲ 292,037	
ア. 繰越金	443,209	443,209	0	
イ. 入会金	1,360,000	1,386,910	▲ 26,910	
ウ. 年会費	4,000,000	3,799,200	▲ 200,800	1964人分
エ. 雑収入	280,000	161,853	▲ 118,147	注1
2) 支出の部	6,083,209	5,479,403	▲ 603,806	
運営基金積立金				
A. 総会費	900,000	760,385	▲ 139,615	
B. 本部費	250,000	105,708	▲ 144,292	含慶弔費
C. 幹事会費	200,000	0	▲ 200,000	
D. 広報費	1,600,000	1,601,548	▲ 1,548	含インター初代
E. 発送費	1,900,000	1,859,077	▲ 40,923	きずな送料
F. 行事費	250,000	242,685	▲ 7,315	校歌祭参加
G. 山荘費	650,000	650,000	0	
H. 予備費	333,209	260,000	▲ 73,209	注2
3) 差引残高	0	311,769		次期繰越

注1. 寄付収入、広告収入、受取利息
注2. 学校活動協力として支出

上記のとおり、平成11年度会計収支を決算して報告いたします。

会計

道家 正昭
小野塚 直子

上記会計収支決算を監査した結果、適正であることを認めます。
会計監査

川口 弘
濱崎 隆光

平成12年度 会計予算案
(平成12年4月1日~平成13年3月31日)

収入の部	前年実績	予算収入額	対前年%	対前年増減
ア. 繰越金	443,209	311,769	70.34%	-131,440
イ. 入会金	1,386,910	1,415,000	102.03%	28,090
ウ. 年会費	3,799,200	3,419,280	90.00%	-379,920
エ. 雑収入	161,853	150,000	92.68%	-11,853
収入合計	5,791,172	5,296,049	91.45%	-495,123
支出の部	前年実績	予算支出額	対前年%	対予算実績
運営基金積立金	0	0		
A. 総会費	760,385	600,000	78.91%	-160,385
B. 本部費	105,708	100,000	94.60%	-5,708
C. 幹事会費	0	50,000		50,000
D. 広報費	1,601,548	1,550,000	96.78%	-51,548
E. 発送費	1,859,077	1,860,000	100.05%	923
F. 行事費	242,685	240,000	98.89%	-2,685
G. 山荘費	650,000	600,000	92.31%	-50,000
H. 高校援助	260,000	150,000	57.69%	-110,000
I. 予備費	73,209	146,049		72,840
支出合計	5,552,612	5,296,049	95.38%	-256,563

*60周年記念行事予算は運営基金積立90万円を当てるものとする。

★★特集★★ 私たちの クラブ活動

クラブの多い思
ま生動きまし
ま窓の活きた
その同クラブ
がだったク
生活だっは
高校生がそ
の思い出今
は寄せてい
い出を

生物部OB会活動しちやった報告

手塚孝一 (二十回)

生物部の活動の中に、長野県白馬村八方尾根の植物、動物、昆虫、微生物などの生態調査がありました。黒菱山荘より上に登った第2ケルン近くの八方平にテントを張り、1週間の合宿で思い思いの活動をしていました。山と言えば、小学校の遠足で行った高尾山ぐらいいいか知らない部員にとって、悠々しくそびえる白馬三山を初めて見たときの感動は、一生忘れられない、まさに山との出会いの瞬間でありました。それ以来、中高年の今となっても山歩きをひたすら続けている仲間が大勢います。合宿では、先輩達に重い荷物の背負い方、歩き方からはじまり、山での様々な生活や遊びを学んだものです。そして、集大成として、研究誌『八方の自然』を発刊することも出来ました。

このような活動を大自然と共に出来たことは、生物部顧問の水谷先生はじめOB諸先輩のおかげだと思えます。そんな中、八方尾根、唐松岳に行こうよと言う話が持ち上がり、久しぶりに会を催すことになりました。

以下、二回の活動内容を報告します。
【水谷先生と八方尾根、唐松岳に行く会】
日程 一九九八年七月十八日～二十日



参加者 水谷先生、竹内先生(旧姓山田)以下十五期～二十七期まで二十七名

唐松岳(標高二六九六メートル)を目指す登山隊と、久々の山歩きであり自信が無く、途中の丸山大雪渓まで歩くトレッキング隊、体が重いとか、本人の都合により山麓をぶらぶらす隊に分かれ行動をしました。

水谷先生と共に登山隊は十八日早朝白馬村に集合、心配していた天候は嘘のように晴れわたる、白馬三山を仰ぎ見ながら車で黒菱まで行き、リフトを乗り継いで国民宿舎まで。そこからはそれぞれ、山を眺め、花の名前を思い出して、写真を撮りと思い思いの行動で登って行きました。しかし、植物観察という口実での休憩が多く、隊長としては午後にはやってくるだろう雷雨を気にしてハラハラしどろしどろでありました。

そんな心配もよそに十五時には宿舎予定の唐松山荘に無事到着。まじかに見える剣、立山連峰に感激し、水谷先生と皆、ビールで乾杯。夜

は小屋の外で星空を仰ぎながらの祝宴が続きました。翌朝は雲海が横たわり、まさに雲上の人となつて、いつまでも飽きずに、遠く続く山々に見入っていました。

その後下山を開始し、丸山雪渓でトレッキング隊と合流。二十年、三十年ぶりの再会という人もいて大賑わいでした。

昼食もそこそこに、雪渓をカッコよく滑る人(尻セードだ)、雪合戦を始める人等、さつそく雪遊びが始まってしまい、全く昔も今も変わらず、この人達、合宿で生態調査を真面目にやっていたのかと思えました。

大勢での帰り路はガスが大分出てきて白馬三山の展望は余り無かったのですが、ヨツバシオガマとミヤマシオガマの遠い等水谷先生の解説による高山植物を観察しながら、現役時代さながらの活動を楽しみました。

無事下山後、宿泊地でぶらぶら隊と一緒に夜遅くまで生物談義に花が咲きました。翌朝、十七期谷口さんの案内でバードウォッチングを楽しみ、昼食後、又の再会を約束し解散となりました。

【水谷先生と早春の白馬山麓を楽しむ会】
日程 二〇〇〇年四月二十九日～三十日

参加者 水谷先生、竹内先生(旧姓山田)以下十五期から二十六期まで十七名

真っ白な白馬三山と芽吹き色の森、カタクリの花。欲張り気味に突然やってくる白馬の春を求め、こりずにまたやって来ました。十二時に白馬駅に集合。素晴らしい天気です。見えます、見えます。真っ白な白馬三山。感々激でくす。駅前で昼食のお弁当を買って、さっそく八方尾根の隣に位置する岩岳山頂に(標高二二〇〇メートル)。

といつてもロープウェイですが。しかし、今年は例年になくピククリするほど残雪が多く、雪の上で、お尻が冷たくなるのを気にしながら、白馬三山を眺めてお弁当。誰か

さんがいれてくれたコーヒーが実に美味かったです。

当初歩く予定にしていた下山ルート(朴の木平から楠川)は雪だらけ。どうしようか迷いがあつたが、こんな良い天気、引き下がるのはモッタイなく、強行突破することに。中には運動靴の人も。このような人達が遭難するのでしょうか。そうなんですよと誰かさんが言っていました。

ほとんど下りの明るいブナの林の中、枝越しに白馬三山を見ながら、どこでも歩いてしまふ残雪の上をサクサクと足音をたてながら、みんな思い思いに歩き回り、遅い春の中にも、何か春を求めているようでありませぬ。途中、雪の上に黄色い点々。何だ何だと、又例の如く大騒ぎ。よく見ると鳥の糞でした。ふうんなんていつている場合ではありません。その頭上になんと鳥がブナの新芽を食べているではありませぬか。早速双眼鏡で見るとウソという全体は灰色がかつた鳥ですが、首元が鮮やかなピンクでかわい鳥です。(ウソ々なんて誰も言いませんでした。)

ブナの木にも個体差があるのか、早く芽吹いた木には必ずウソが新芽を突つき群れをなしていました。

そしてみんな、水谷先生と自然観察を楽しみながら、雪に足を取られたり、思わぬ雪の落とし穴にハマったりしながら、暖かな陽射しの中無事下山。林道に出たところで日当たりの良い場所にやつとカタクリの花が咲いていました。そして帰り路、夜のつまみにと、フキノトウ摘みの始まり。またまた道草です。袋一杯の収穫後、松川にある、白馬三山の眺めが実に最高の露天風呂(鉄分多き、茶色の温泉)に浸かり、夕暮れの白馬三山を見ながらビールで乾杯。

宿泊地スカラ(山岳部、山荘OB石田夫妻のプチホテル)に無事到着したのは夕方七時を過ぎていました。早速収穫したフキノトウをてんぷらにしてください、春のながみ、香りを楽し

た。

た。

みました。スカラの美味しい食事の後、またまた夜遅くまで生物談義に花が咲きました。先生はじめ、皆さん現役の頃から何も変わっていませんね。

翌日は、カタクリの群落が未だつぼみで諦め、姫川源流に。ここは北アルプスの雪解けの伏流水が湧き出ていて、ごく自然の森の中に湧水ありといった素晴らしいところです。ミズバショウも多少花ひらいていましたが、今年の遅い春が功を奏したのか、フクジュソウの大群落がちょうど見頃でありました。これだけ多いと有り難味を失ってしまうほどです。帰りに、ザゼンソウの群落も見ました。ザゼンソウは自ら熱を出して、周りの雪を解かし、雪の中から顔を出すと知り、又生物談義の題材になったと思います。スカラで昼食後、解散。皆思い思いで遅い春を収穫し、帰られました。

以上報告です。
このような活動が出来るのは、ナントいてもお元氣な水谷先生の人柄と、そして今回先生が話された中に、人には、見えるものを見て喜ぶ人と、見えないものを見るようにして喜ぶ人がいて、生物部の連中は正に後者だとおっしゃっていました。このように、現役時代からの物事に対する変わらぬ探求心があるからだと思います。これからは先生と共に、このような活動を続けて行けたらと思います。

水谷先生には本当に感謝、そして感激でした。
又協力いただいたOBの皆様方にもお礼申し上げます。これからも参加を期待します。一緒に楽しくやりましょう。尚、スカラの石田ご夫妻には夏の八方、唐松行きから今回と宿泊等いろいろお世話になりました。居心地良い思いをさせていただきました。ありがとうございます。

追伸、今回の企画案内状は十四期〜二十七

期ぐらいまででした。届かなかった皆様方、大変申し訳ございません。ごめんなさい。次回はと思います。

今回の実行委員二十期手塚、二十二期青木でした。

「テニスクラブに勤めて」

織井 信行(六回)

私は現在テニスクラブに勤務しています。週一日の休みの他にまとまった休みがとれるのは、お盆と正月ぐらいなものです。でも、好きなことをやっていることで納得していません、家族は別でしょうが。

仕事の源は高校時代のテニス部に在籍した三年間にあります。当初は軽い気持ちで入部したのですが、翌日からは重い気持ちになっ

てしまいました。百人近くいた新入部員も、一ヶ月で十人程度にまで減ってしまうようなきつい練習の毎日でした。上級生はみんな鬼のように見えました。テニスは楽しくて優雅なスポーツだなんて誰が言ったんだ、と心の中で叫んでいました。そんな中で楽しみだったのが、練習終了間際の、十五分間のボールを打つ練習でした。新入部員はほとんどの時間、ボール拾いかトレーニングだったので、その時間が待ち遠しくてしかたがありませんでした。ボールが自分の思うように飛ばすことができない。たったこれだけのことが、とてつもなく難しいということがわかった頃でもありました。それからは人が変わったようにテニスに打ち込み始めてしまったのです。そんな日がまたたく間に過ぎ、気がつくとなんかスコーチになっていました。職業としてからも、スランプは時々やってきます。そんな時は、なぜか高校時代を思い出します。きつかった練習、厳しかった先輩、上手なOB達練習試合、個人選、団体戦。

あんなにきつかった高校時代の部活が、

今では私の「拠り所」となっているのです。不思議なものです。

石吹・石神井高校吹奏楽部OB会の現役生に対する支援について

高野真人(四十一回)

一昔前には部員数一〇〇名を誇る大所帯だった石吹も、ここ数年は、平均二〇〇〜三〇〇名という吹奏楽の編成が成り立つぎりぎりの人数で活動しています。特に三年程前には、部員数が十名ほどまでになり、毎日の練習もきちんとできず、「おしゃべりクラブ」になってしまい、定期演奏会も中止され、廃部の危機がささやかれるほどになっておりました。そんな状況が変化したきっかけは、現顧問の白井先生からの石吹OBへのSOS連絡でした。一九九九年四月、新入生を勧誘するための「スプリング・コンサート」に、OBが賛助出演し、以後、OBが現役のお手伝いをする事により、石吹に活気と元気が復活しました。

石吹は、発足以来、顧問の先生が手取り足取り指導するという形態を取っていません。OBが各パートを指導し、コンクールや定期演奏会では、指揮も担当して行きました。しかし、いつのころからか、現役部員が、OBに対して指導等を依頼しなくなってしまうました。その主な原因としては、卒業後に大学等に進学しても、楽器や音楽活動を続ける若いOBが少なくなり、指導の時間を確保することが困難になったことが挙げられます。

私(四十一回生 石吹二十期)は、現在、北海道で中学校の音楽教師をしており、3年前に病気で倒れ、東



京の実家で療養をしておりました。一九九九年十月より、復職のためのリハビリも兼ね、石吹の指導をするようになりました。私が携わるようになったときには、部員数も十八名ほどになっており、現役の練習に対する態度も、一時期に比べるとずいぶん改善されていきました。そこで私は、定期演奏会の復活を当面の目標として活動をアシストしようと考えました。定期演奏会に向けた練習を通して、現役の演奏レベルは、少しずつ向上していきました。演奏発表の場を増やすため、東京校歌祭へもOBと共に参加して好評を得ました。石吹OBの長老(?)である木村好一先輩(二十四回生 石吹三期)といろいろな相談をし、現役の指導方法やOBの関わり方を検討し、定期演奏会でのOBの援助体制も固めてまいりました。そして、二〇〇〇年三月十九日午後二時より、石神井高校内多目的ホールにて、第二十二回都立石神井高校吹奏楽部定期演奏会が、復活開催されました。現役十八名、OB・OG二十名ほどが出演し、聴衆もほぼ満員となり、定期演奏会は、大成功に終わりました。演奏会終了後、音楽室にて、二〇〇〇年記念大

OB・OG会を開催しました。歴代顧問の先生方にもご足労いただき、石吹一期〜三期までのOB・OG約八〇名が集い、旧交を暖め、交流を深め合うことができました。大OB・OG会では、東京都の財政削減政策などで、楽器の修理代にも事欠くようになっている現役に対して、OB会とし

て寄付を募りました。約十万円のお金が集まり、白井先生を通じて現役に寄付されました。現在、石吹OB・OGは、およそ五〇〇名を数えるに至っています。この会を契機として、ますますOB・OG相互の結束を深め、組織をより強固なものとして、現役への金銭的援助もふくめて、日常の指導をより充実させてまいりたいと思っています。現役の人数が少ないということは、卒業後に現役を指導できる若いOBが少なくなるということです。そこで、大学も卒業し、社会人となっている年長のOB・OGにも、現役の支援にご尽力いただきたいと思っています。それぞれが、仕事等で忙しいのですが、幸い、石吹には、インターネット上のホームページがあります。これを活用し、相互の連絡を密にし、土日などを利用して積極的に石吹に足を運び、現役との繋がりをより深めてほしいと思っています。同時に、平日に割合と時間がとれる若い学生OBの育成が課題になっています。それぞれができる範囲で、できるだけのができる状況を創りだし、維持してまいりたいと思います。

ハンドボールの思い出

谷本千晶(旧姓・大久保 二十七回)

私は1年から3年の夏のインターハイ予選まで、来る日も来る日も、ハンドボールに明け暮れました。はじめてハンドボールを見たのは入学してからでした。(我が中学にはありませんでした。)なかなか上達せず、何度も止める事を考えていた私を最後までやらせてくれたのは、先輩、仲間、後輩と人間味あふれる人達に囲まれていたからだと思います。死ぬ程厳しかったコーチの方々も今ではとても懐かしいです。チームプレイで人と協力

しあう事を学び、何回も何回も練習する事で根性がついたような気がします。大人になった今、ハンドボールをするわけではありませんが、あの時つちかかった精神は、今も何らかの形で役に立っていると思います。

しやれっけのない、真つ黒ながつちりした少女でしたが、その後、幼稚園教諭になった時の体力に多いに役立ちました。

今ではその頃からくらべると、10kg位体重も減りましたが、体力ももつとの割り合いで減っています。

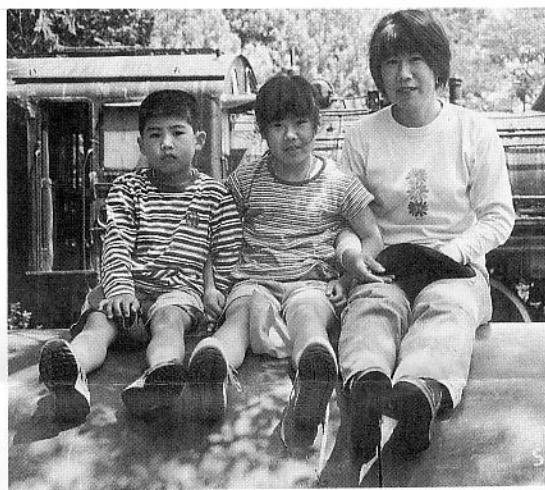
あいにく、我が家には子供はおりませんが、甥や姪には若い高校時代にしか出来ない事、何でもいいから心から夢中になれるもの1つでいいからみつつけてほしいと、よく言い聞かせています。おしゃれなんて、大学に入ってからでも充分だと思っています。青春時代Ⅱ高校時代Ⅱハンドボールだった、私は今胸を張って楽しかった、充実していた、と言えます。

特に、あの頃の石神井はスポーツが盛んでした。思いきり、走ってドリブルして・・・と昔のとてもよい思い出です。こういう機会でもない、これほど鮮明に部活動の事を思い出す事は毎日の生活に追われてなかったかもしれせん。そう言う意味で感謝いたします。

ラグビー部マネージャーだったこと

大城 英子(旧姓岩井・二十七回)

現在、私は二児の母親として平凡な生活を送っています。子供に恵まれたのが遅かった為まだ幼い子供を抱えているので(小二の娘と幼稚園年長の息子)目下ほとんどの時間を子供達の世話に費やしています。同時に幼児期の母と子の関わり方について直面している毎



日です。(と言っても育児は育自とも言われるように私自身が子供達から教えられているのですが)。この関わり方について最近の十代の若者の凄惨な犯罪の報道に心が騒ぎます。少なくとも子供達のこれからの人生を実り多いものにしていく為の基礎である「人との関わり方」を育むことが私の務めであると考えています。

私にとつて「人との関わり」の大切さを特に実感させられたのは高校時代であったと思います。部活はラグビー部のマネージャーをしていました。(あまり真面目なマネージャーではありませんでした)。先輩方には部活の事だけでなく、私的な面でも色々とお世話になりました。中でも一級上の金仁子先輩の事は今でも忘れません。また、体育祭や石神井山荘での思い出にも多くの方々とのさまざまな関わりがありました。今思えば高校時代は周囲の人々にかんがりの迷惑をかけながらも沢山の先輩や友人達と出会い、育まれ、充実した三年間を過ごせたと思っています。現在、高校との唯一の接点は毎年一回開かれる三年E組のクラス会です。担任の春日正文先生を

お知らせ

バスケット部 OB会開催

来る7月16日(日)14時よりOB総会を行います。同時に故清水先生の追悼会も行います。つきましては、追悼文集を作成中です。連絡のない人は、山下 章 までご一報ください。

TEL/FAX 03-5934-2682

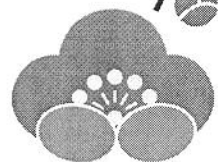
編集からの はみ出し記事

「きずな」の定番記事だった、「卒業生の進路」すなわち進学先の一覧表ですが、今年は資料収集が追いつかず、掲載ができませんでした。

私もふだんは〇〇ちゃんのお母さん、〇〇さんの奥さんと呼ばれるのが当たり前ですが、「えこちゃん」と当時の呼び名で呼ばれるとなぜかうれしくなります。何より矍鑠とされた春日先生(今年で八十八才になられます)にお会いするとパワーを頂いたように逆こちらが元氣になります。今年も卒業後二十五回目の記念すべきクラス会(五月二十八日)が開かれます。

このような心温まる『人との関わり』を心がけ、子供達にも伝えていきたいと思っています。最後にこの場を借りて、お世話になった先生、友人達にお礼を申し上げます。蛇足ですが、一つ残念なことは高校の卒業アルバムを紛失してしまったことです。

同窓生からの お便り ・近況報告



パラオ紀行Ⅲ 東土

(元体育教諭) 八十三歳

今年の三月末に、城君(十二回生)に誘われて「私のラバさん酋長の娘」の唄で有名なパラオ諸島に夫婦で参加しました。関西空港からJALの直行便で約四時間、現地は赤道近い太平洋の真ん中、環礁に囲まれた波のない静かな海に大小さまざまな緑の島が浮かんでいる絵のような海域です。その間を高速船で縫って行く爽やかな気分は言い表しようがありません。石灰岩の島々は、海水の浸食で裾はくくられたように切り立ち、鍾乳石の下がる天井を廻らしているから、船は着けられず人跡を知らない自然そのままの緑の樹木に覆われています。

毎日やってくるスコールで、石灰岩は水分を含み、樹木を生き茂らすのでしょうか。こんな島々の間にも、稀に浦があり、きれいな魚が泳いでいます。

ローズガーデンと言われるテーブル珊瑚のきれいなところで船を停めて私を除く全員がシュノーケルを付け下船、思い思いに泳ぎ、きれいな魚を追いつつ、誰かが「入れ歯を落とした」と騒ぎになった。総入れ歯なのでシュノーケルを外す弾みに落ちたという。水深は七八メートル近くあり、これから何も食べられなくなる」と嘆く渋い顔に、全員がシュノーケルをくわえ、青い海に腹はい、手足を動かして探す様子は泳ぎ回る魚群よりずっときれいだった。こんな素晴らしい光景を見ているのは、船上の私一人だから写真をとったのにはいかにフィルム切れだった。幸いパラオ人の船の操舵手の巧みな潜水で奇跡的に拾い上げられたが、きれいな海でのきれいな出来事だった。しかしもつと驚いたのはこの件を酒の肴にしたその日の夕食の盛り上がりだった。これを見て何が起ころうと後腐れしない、城パラオ会のエネルギーを見たのです。



パラオの海は緑の島を浮かべた楽園とばかり思っていたのに。船は島々の狭い間をぬけ、神秘的な湾へと滑り込み、エンジンを止めた。「ここはミルキーウェイ。島々の形状、位置関係、海流の影響で、溶解した石灰分が沈殿しているところ。この沈殿物を塗れば、肌はすべすべ美人になる」と説明し、案内嬢は飛び込んだ。今までは、どこでも潜水水中の人影を見ることが出来たのに、ここでは見えなかった。やが

て白壁土を捧げもって船上へ。私は海底の汚泥と見たが、これが天然の化粧品と言われれば、勇気有る人から恐る恐る顔に塗りだした。そして隣の人に塗り付け始めると後は止まらない。出ている肌は所かまわず。私なんか毛のない頭が一番目に付くのか、まず頭からそして顔へと塗り付けられた。全員誰だか判らぬ変わりよう船中大賑わいの内に帰着。「このままではホテルに入れてくれないから、前の海で洗い落とすように」の城君からの忠告があると、「落とす前に記念写真を」となり全員が「われこそ」と並んだ。果たしてどんな写真になるのやら。

マンタに会えるスポットへとジャーマンチャネルを通って動くうち、あれがペリリュー島と指された。私達年配は激戦のあったところ、日本軍が全滅したところと覚えているから思わず立ち上がり指さす方を見てみると、当時のニュース報道の声が耳に響いて来た。地図にブレッドピーチと有るのを見つけると、更に戦争の凄惨が浮かんで来た。その他にも沈んでいる零戦、穏やかな海面に向いている錆びた砲身、浸食孔を利用した燃料倉庫跡などを見るのだが、空は明るく波のない、浦島話の伝わるパラオには全く相応しくない。美を求め、穏やか、優しさを求める心がある一方、残忍を剥き出しにする心を併せ持った人間の性の仕業と見れば「人間って愚かな事をするものだ」とため息が出る。用心の上にも用心をして生きていこう。

石原都知事来島時に愛用のクルーザーに乗ったり、二人乗りのカヤックの醍醐味を味わったりで、十歳以上若返る旅を楽しむ事が出来ました。



今年末に地下鉄12号線開通! 青山の石神井倶楽部が駅に直結してより便利になります。

☎03-3403-3461

土日祭日貸切可

懐かしい顔々と楽しい語らいに
クラス会・同期会・お集まりに(特約)
都内8店舗直営 城和裕(12期生)
レストランあおしま青山店

〒107港区北青山1-2-3(青山ビルB1)地下鉄青山-1日線一分 店長 小田由行



つれづれに思えば

清水京子(旧姓・麻生 二十七回)

風薫る五月を迎える頃、大泉高校応援団の
声が我が家まで響き渡ってくる。

思えば私も十五才の春から三年間、石神井
応援団に陶酔し、気力、体力、そして最後に
涙と、青春の時を費やしたものだ。三年生の
時NHKから取材が来た。高校生のドキュメ
ンタリー番組と題し、放映されたと思う。

きつと「今どきの若者」と言う風景だったろ
う。二十世紀を担うであろう大人になるべく
三十年代に生まれた子供達の姿が、そこには
描かれていたかもしれない。そして卒業。暢
気な大学生活。さほど就職難でもなく社会人
となり優雅なOLと変身した。お茶当番は当
たり前、コピー、雑用、アシスタントと言え
ば聞こえは良いが、歯車のひとかけらにすぎ
ない生活を数年。結婚、出産、子育て、PT
A・・・三十代は追われるように過ぎ、
あつという間に、四十代半ばになりました。

これまでの人生、文字にしてしまえばひと
読みです。高校を卒業してからさまざま選
択を経験し、人と出会い、今、あの頃の想像
が具体的な形でここにある。まさしく、時の
流れで自分を作ってきたと実感してしまう。
あまり立ち止まる事なく日々を過ごしてし
まったかな、と後悔じみてしまうが、ふっ
とひと吹きすると、ヒラヒラ舞い浮かんでい
るような、軽やかな日々を過ごしてこれた事
は、何よりも幸せだと思ふ。

今年、長男が高校生になった。ご多分に漏
れず、Eメールを始めた。流れの速い若者文
化に鍛えられた彼らこそ、今度は、二十一世
紀を担うであろう大人になっていくのだ。

さて私は、人生半分過ぎたところで考える
時である。もうすでに、想像だけでは進歩は
なく、日々具体的な物差しで現実を計り、明

日につなげていかななくてはいけない。それで
もやはり自分の老後は見えませんが、
「楽しみはまだまだこれからだよ」と、三
人の子供達にポンポンと肩をたたかれた。

“おいしい水”でお待ちしています

丸山博史(二十回)

ごぶさたしています。追んだしのあと母校
へ顔を出したのは、浪人の夏にプールを借り
に行つたのと、学外の友人とスキーで黒菱山
荘に泊まったことぐらいでしょうか！

あの頃、ドロップアウトという便利な言葉
があつて、自ら落ちこぼれという積極性をま
とつてコースを外れても認められる時代でし
た。御多分にもれず私も先行き不安の悩める
日々。ヒッピー文化華やかにし頃です。自
分たちで世の中を変えられるという甘い希望
と根拠のない自信。でもちゃんと勉強しない
とダメなんですよねえ。遅いスタートだった
けれど、今でも師と仰ぐ写真家と出合つて写
真について学びました。コマージュとは縁
がない世界でしたから、お金を稼ぐのは大変
でしたが、応援してくれる人物も現れてフ
リーのカメラマンとしてスタートしました。
仕事は不安定でしたので、昼は写真を撮り、
夜はJAZZの流れる酒場でアルバイトもし
ました。幸い、まわりには立派な写真家、友
人が沢山集まつて、夜な夜な芸術家のサロン
の様でした。今でもA木経惟さん、M山大道
さん、K田精二さん、O島洋さんらと親交を
深めさせていただいており、沢山の刺激を受
け続けています。練馬は桜台に仲間と小さな
スタジオを共有して雑誌の仕事などを請け
負つておりましたが、平成の大不況は容赦な
く弱小カメラマンを失業させました。

かねてから思い描いていたのは、仲間が夜
な夜な集まる気のおけないパブ、そう、英国
を旅した時にえらく感動した、日常に根ざし
た酒場を経営することでした、それも花で入
口をいっぱい飾つた。ずっと好きだったボ
サノバを流して居心地のいい空間を作るのに
そう時間はかかりませんでした。あつという
間にこれを実現させてくれる素敵な古木材デ
ザイナーと出会つたのです。
店は彼の出自である船大工故の海のイメー
ジで出ています。風と波と光がボサノバに
ピッタリ。
とてもやさしい場が出来上がりました。で
も店主は口べた、無愛想です。話したり、聞
いたりもしますが、この店の仕事ではありま
せん。
自分で自分の時間をつくり楽しめる人がこ
の場を有効利用出来るのだと思つています。
そんなこの店を気に入ってくれる常連さん
や、毎日の様に通つてくれるお客さんを大切
にしています。ほつたらかしを皮肉つて「お
いしい水(当店の名)でなくて、「冷たい水
だ!」とにくまれ口をきく旧友を見送りなが
ら、心の中でつぶやきます。「素敵なセカンド
ネームをありがとう。水は少し冷たい方がお
いしいのだ」と。
是非おいしく、冷えた水(つまり酒)を飲
みにいらして下さい。お待ちしております。

PS

メニューはチャージが五〇〇Yen、Dr
inkも五〇〇Yenからです。きずなを見
たといつてくだされば八月いっぱい女性には
カクテルを、男性にはビールかワインを一杯
サービスさせていただきます。

又、依頼はなくても写真家として活動を続
けておりますので、モデル希望の方、お申し
出ください。ちなみに当方、専門はNUDE
でございます。

●年中無休 AM10時~PM10時

平日 ¥600 (1日)
土日祝 ¥700 (3時間)

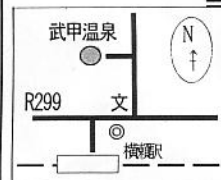


日帰り温泉
露天風呂

秩父湯元 武甲温泉

☎0494-25-5151

ニッコリ コイコイ



西武秩父線横瀬駅下車徒歩8分

★横瀬駅には、西武特急レッドアローが4
月から停まります。



おいしい水

新宿区新宿3-7-9
TEL(3354)3300
OPEN 17:30

石神井でてから三十余年

伊藤 文夫(二十一回)

私は、昭和四十四年に卒業し、中央大学法学部に入學しました。人生にこれと言った目的もなく、少々文学少年だった私は、実家のある善福寺公園の池の周囲をぐるぐると散歩するだけで徒に月日を過ごし、昭和四十九年に何となく大学も卒業してしまつたのです。

周囲の冷たい視線を予感し、言い逃れのためにも「司法試験の勉強をする」とつぶやいた私は外形をとりつくりうために法律の勉強を始めました。元々勉強は苦手、法律書を読むふりをしては居眠りを続けること数年、夏は遊ぶ金欲しさのアルバイト、冬は机に向かつてコックリばかりという生活の後、私は昭和五十二年に司法試験に合格しました。昭和五十三年に司法研修所という処に入所してひたすら学業をサボり続け遊び呆けているうちに二年後に出所(刑務所ではありません)、弁護士になつたのであります。

その後、数年間イソ弁(この世界ではボス弁から給料をもらう弁護士のことを居候弁護士をモジってこう呼びます)をしてから独立開業し、現在は同僚四人で細々と法律事務所を開いております。もちろん一時期流行した表現でいうマルビの側です。

仕事の内容は一般的な民事・商事・刑事の事件を取り扱い、例えば刑事事件ではヤクザの親分の弁護を引き受けて、北は網走から南は宮崎までの各地の刑務所へ出掛けていつて証人尋問をしたりしました。日常的には離婚・倒産・相続・不動産紛争等々と世相を反映したよろずのモメゴトを相手にああでもないこうでもないと言いながら生計をたてているのであります。特に近年は金融システムの混乱(要するに銀行が金を貸さない)から生じるトラブルが多く、繁栄の反動とも思える不景気の中で困っている人々が目立ちます。

困っている人からお金をもらって商売するのですから弁護士とは悪こぎです。でも、考えてみれば病気の人が医者は金を取り、坊主は死んだ人で儲けているのだとも言えるので、世をすねてもはじまらない訳です。石神井を出てから三十余年の歳月が流れました。懐かしい同期生達の人生はどのようなか。

私たちの出産記録

小出正秀・友子(四十回)

前日の夜、陣痛のため夜9時頃病院に向かった。家から近い病院はすでに真つ暗で、インターホンで戸を開けてもらう。分娩室にはいるまでは、隣の部屋で出産を待つ。

陣痛の波が来るたびに腰を撫で、治まれば休憩。何回となく分娩室に入り、子宮口の広がり確かめては、部屋に戻るといくりかえし。刻々と時間が過ぎていく。

その間にも隣であんなに苦しんでいた妊婦がおそらく、今まであげたことのない叫びをあげ母親になつた。「次は自分達だ」と思つても、なかなかお産は始まらない。

日付はとつくに変わり、あたりが明るくなつてきた。待つ身はつらいものだと言えながら実感していた。あつちをウロウロこつちをウロウロ。何時間たつた頃か、とうとう分娩室でお産が始まろうとしていた。

約1時間ぐらいたつた頃だろうか。「旦那さん呼んで」と中から聞こえてきた。何も分からないうちに、中に入ると、もう、少しだけ頭が見えていた。それから何分経つたか解らないが、やはり、今までおよそ聞いたこともない苦しみをあげて妻がいきむと、小さな赤ん坊が出てきたのだ。

2870グラム、身長49センチの鳴き声の美しい元気な女の子だ。変な話だが、女の

人のあそこから人間が生まれる事に妙な驚愕を感じていた。それと同時に女性のすごさを知つた。女の人はある意味「神」だと思つた。そして「神」の子供は、やはり「天使」だったのだ。

老人とインターネット

城 洋司(四回)

今年の正月休みを利用してホームページを開設した。

石神井高校同窓会ホームページの存在は承知していたので、早速相互リンクを申し出た。そのお世話を頂いた二十七回生の板谷氏から『高校卒業年度一桁会員の原稿が集まらないので・・・』と、メールが飛び込んで来た。

卒業年度一桁の同窓生と言えば、略六十代に収まるだろう。四回生の小生が、その半ばを越えるのだから。しかし、定年を迎え孫のお守りばかりでも始まるまい。小生のホームページには『老人ですが、redieしません』なんて書いてあつたりするが、実を言えばこれは生涯現役の宣言である。

元々一匹狼で仕事して来た、今風に言えばSOHOである。特許明細書の翻訳をずっと手がけてきたので、ワープロは商売道具であり、パソコンに切替えてからでも十五年位は経つたろう。しかし、パソコンを習いにいった事はない。要するに、自分勝手に、たまたま同好の友人から情報を得るだけでやって来た。

昨年の五月末に生まれ育ち六十年暮らした東京から、和歌山市内ではあるが、万葉時代から景勝の地として知られた、この和歌の浦に引越してきた。仕事柄、夜中の方が捗るので、夜はもっぱらディスプレイを睨みながらキーボードを叩いているが、朝夕は海を眺

め水平線に没する夕陽を望みつつ、夏は海水浴、それ以外の季節は散歩する。和歌浦、田ノ浦漁港も近いので、毎朝新鮮な魚の揚がるのも楽しみの一つだ。仕事の面では東京に居るとまつたく変わらない。インターネットの故である。今や時間的、地理的ハンディは存在しない。メールのやりとり、情報収集、大都会でなければならぬ条件を探す方が困難だ。

小生の持論はインターネットこそ、老人のハンディキャップを持った人々に最も適した、便利な道具である、と言うことだ。

色々な可能性を拓けてくれるばかりでなく、とても楽しい。年取って時間を持ってあまなぞというのには小生には考えられない。どうぞ、マイホームページの海の写真を観に来てください。ネット上で同窓会諸兄弟と気軽に交歓しましょう。



城さんのホームページ。石神井同窓会のページからもリンクしています。

同期会報告 ・お知らせ

昨年から今年にかけて開催された、同期会・クラス会の報告と、これから予定している会のお知らせです。お問い合わせは、それぞれの期の幹事の方へ、直接お願いします。

中学三期生B組クラス会

酒井達 (中学三回)



平成十一年十一月二十七日、昭和三十五年以來毎回開催して二十回目を迎えたクラス会に、七〇才になった旧友が十六名集いました。言うなれば風雪に耐えた老梅ですが、校章が示す如く、古来梅は強さ、忍耐、勝利の象徴だと自負しています。会場は毎年新宿モノリス29です

エイト会のご報告

エイト会 代表幹事 山田康之(八回)

が、今回は八十六才の恩師金子先生が茅ヶ崎から態々お越しくださいました。そして、高村光太郎の詩「牛はのろのろと歩く」を朗読されたころの追憶が先生のお姿に重なり、勤労員で共に田無のシチズン時計で苦勞した時の思い出話などをして、楽しい一時をすごしました。三浦先生、新井先生、辻先生は残念ながらお越し出来ませんでした。クラス会の面々は来年の再開を約して散会しました。



平成十一年十一月二十日(土)、昭和三十一年卒業第八回生の同期会を、箱根湯本温泉「箱根路開雲」で行いました。

一泊旅行は、平成九年三月に続いて二回目となりましたが、折しも紅葉の時期と重なった上、好天にも恵まれ、絶好の同期会となりました。

全卒業生三百四十八名中、連絡先のわかつている二百四十名に案内を出しましたが、出欠の返事のあった方は百四十八名。そして当日は、男性二十九名女性四名で、合計三十三名の参加となりました。行楽期のためか、都合のつかなかった方が多くて、寂しい参加人数となりました。残念、残念。

宴会では、何人かの有志に景品を提供してもらい、ビンゴゲームに打ち興じたりして、和気あいあいと、昔の高校時代に立ち返り、楽しいひとときを過ごしたのは言うまでもありません。続いての二次会は、一室に全員が寄り集まり、足の踏み場もない位。そこでは、先生方の思い出や、近況を思い思い語り合い「自由闊達」、石神井の校風そのままに「談論風発」、夜が更けていくのも忘れてしまいました。

還暦を過ぎますと、黄泉(よみ)の国へ行ってしまふ仲間も出てきたり、病氣療養中の方もあつたりして、年ごとに寂しくなってきました。が、お互いに元気で、一人でも多く参加し、一年でも永く、この楽しい会が続けられるよう、心がけていきたいと思っております。

高校十五回卒同期会開かる

中田秀二(十五回)

春爛漫の四月八日、ミレニアム同期会と銘打ち、高校十五回卒業生の同期会が開催された。約六十名の参加者が新宿/京王プラザホテル四十七階に集い、その素晴らしい夜景を鑑賞しながら、かつての旧き良き時代の思い出を語り合い、おおいに盛り上がった。顔を合わせた

瞬間に三十七年前に時間が遡り、「俺」「お前」の仲になってしまふのだから同期会とは不思議なものである。この日に限り、女性陣は旧姓で通すという事でお願ひしたのだが、その事も若返り効果になったようで、女性陣はあたかも女学生に戻ったような華やかな雰囲気、あちこちで談笑の輪が広がっていた。ご多忙中にもかかわらず、門脇、小山、水谷、青木の先生方も駆けつけられ、在りし日のエピソードに花が咲いた。「昔の石神井生には品行が悪いのも居たが、将来に期待を抱かせるような可能性を秘めた若者が多かった。」とお話も頂いた。むろん、今となつては、その期待を裏切った人の数の方が多いのだが...

先生方は全員、七十代の筈であるが、とてもお元気で姿勢も良く、言動もてきぱきとしていて、名札を見ないと同期生と間違えてしまうくらいであった。二次会はワシントンホテルで開かれ、こちらにも三十名を超える人が集まり、夜が更けるのも忘れ、全員が青春時代に戻ったかのように、かつての思い出話に浸っていた。「ワシントンホテルの夜が更けて」などという若い人には分からないようなジョークも飛び出す始末である。一部の人達は更に離れがたく、三次会へと三々五々流れて行き、まさに甦った青春の夜は果てしなく続くのであった。

十七期卒業生三十五周年同期会開催さる

上野俊彦(十七回)

昭和四十年卒業の我々十七期卒業生は卒業後三十五年目に当たる昨年平成十一年十月二日に青山メトロ会館にて同期会を開催致しました。前回、三十周年の記念同期会が百人を超える参加者でやや小き目の会場に詰詰め状態であった反省を踏まえ、今回は石神井高校



発祥の所縁の地の青山に会場を定め、七十人を超える参加者がゆつくりと豪華な立食パーティーを楽しみました。残念ながら先生方は高齢であられること、ご都合がつかなかったこと等で当日のご出席はいただけませんでした。が、何人かの先生方についてはお手紙で頂いた近況のご報告を発表させていただきました。

二次会は会場から歩いて数分の、石神井の先輩が経営する店に場所を移し、ほぼ全員が出席する盛況の中でクラスごとにテーブルを囲んで楽しい一時を過ごしました。

五年に一回では間が開きすぎるとの意見を受け、次回は三年後に開催することを約束して最後は懐かしい校歌を全員で合唱して解散致しました。

今回参加されなかった方々も三年後の二〇〇二年の同期会には是非ご参加ください。

三十数年の年月の隔たりが一瞬にして吹き飛んでしまうような楽しい会になることを幹事一同、今からお約束致します。

同窓生の お店を訪ねて

恵比寿の激戦区で

ラーメン屋をスタート!

清信文博さん (二十回)

東京のラーメン激戦区、恵比寿で評判のラーメンやさんのオーナーが同窓生で、テレビや雑誌などでも取り上げられているおしいお店なのでぜひ紹介してください、とお便りで、高校二十回生の清信さんのお店『英(はなぶさ)』をおたずねしました。

アパレル関連の会社にお勤めだった清信さんが、早期退職に応じることで永年の夢だったラーメン店開業を実現させたのは約一年前。ある程度の自信は最初からお持ちだったとのことですが、ラーメン激戦区といわれる恵比寿、お隣も喜多方ラーメンのお店で、当然やってくる食べ手も手強い場所です。幸い評判が評判を呼ぶかたちで、テレビや雑誌に何度も紹介されて盛況、遠くからくるお客さんも多いそうです。

ラーメンの点数はお客さんの数もさることながら、スープまで全部飲み干す『完食』の比率で判断するそうで、英では特にお酒を飲んだ後にやってくる夜のお客の完食率が高いのが自慢とのこと。

ラーメンは古典的な東京ラーメンというより、和風風味のさっぱりしてコクがあるし、うゆラーメン。素人でもおいしいラーメンを作る人が沢山いますが、しっかりと「味をたてたスープ」を確実に作る事ができるのがプロとの差だそうです。かつおの風味がとても感じられるのですが、「表だし」はト

リガラと豚骨で、「裏だし」にかつお節や煮干し、さらに数種類の野菜を使われています。スープづくりがラーメンの一番の醍醐味であり、今でも朝からの仕込みでスープを作るのが楽しみだそうで、食べ手の立場でラーメンを作ってしまうとどうしても原材料費の費用が高くなってしまうのが悩みだと苦笑されていました。

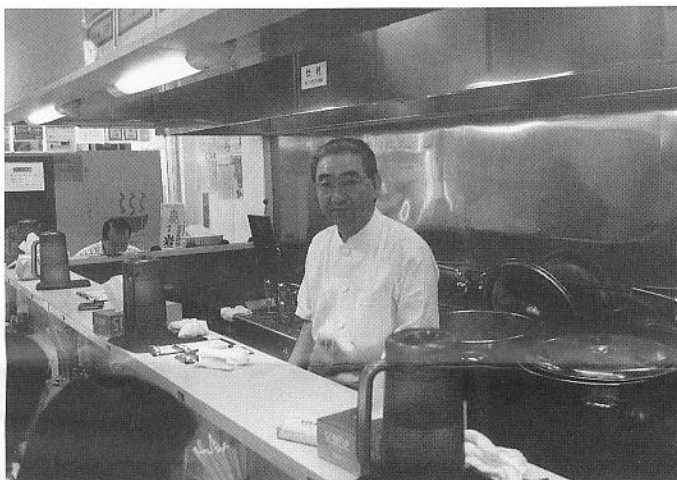
清信さんは、「きずな」に掲載されることで、「昔の同級生がラーメンを食べに来てください、声をかけてくれたら楽しいなあ」と、ラーメンを作りながら語ってくださいました。

「英」 恵比寿駅東口徒歩三分くらい?

渋谷区恵比寿一の四の一

〇三(三四四四)八七二三

(食べてきた人 勝見・板谷)



同期会のお知らせと 同期会アドバイス!

石神井倶楽部からのお知らせ

TEL 〇三(三三一九)一一二二

の電話番号を新設しました。FAXも自動切り換えです。

同窓会会員の住所変更その他、お問い合わせのお手伝いを致します。又同窓会活動に対するご意見、お問い合わせにもどうぞご利用下さい。石神井高校の先生方の中にも母校出身の先生方がだんだん少なくなり、学校の事務員さんの方達も忙しいのでサポートするためこの電話番号をご活用下さい。

もちろん同期会、クラス会等のお問い合わせもお気軽にどうぞ。尚、担当者留守の場合は折り返しお電話致しますので貴方の電話番号を必ず教えてください。

同期会を開いていない期の方で近いうちに開きたいとお考えの場合は、ご相談下さい。簡単な方法でお手伝い致します。又「きずな」の原稿や写真も受け付けます。どしどし送って下さい。石神井倶楽部を利用された会員が書かれたノートからも楽しい内容のものを「きずな」に紹介したいと思えます。

私と黒菱山荘との付き合い

海老名康二（二十三回）

今考えると、私と黒菱山荘との縁は入学前からあったように思います。

それは、今は亡き、化学の重松先生の御長男と私が小学校時代に同級生で家も近所だった為、黒菱山荘へ先生といっしょに行くお話を何度か頂いたからです。（結局実現しなかったのですが）

石神井高校入学後、夏は物理部合宿で黒菱山荘を拠点とし、人の通らないような山の斜面に温度計を設置したり、地質調査で危険なガレ場を歩き回り、夜は一晚中眠気を堪えながら流星観測を行い、慣れない自炊でいろいろ失敗を経験しました。

また、冬休み、春休みは学校行事としてのスキー教室に参加し、黒崎先生、保母先生をはじめ山荘OB、OGの方々に、昼はスキーの特訓を受け、夜はミーティングやゲームと集団生活の楽しさ厳しさを教えて頂きました。この頃はスキー教室への参加希望者が多く抽選を実施していたほどです。

高校卒業後も大学時代はアルバイトでお金を貯めては山荘に長期滞在し、スキーや仲間との語らい（酒盛り）を楽しんだものでした。社会に出た後も、転勤で北海道に行っていた時期を除き年に数回は山荘を利用して頂いています。山荘での共同生活で得たものはいろいろありますが、やはり同じ釜の飯を食った先生方、先輩方後輩達、また山荘で出会ったいろいろな人達との心のふれあいは何にも代え難い私の財産です。

今は中学3年生を頭に4人の子供たちを、小さいときからいっしょに山荘に連れて行き共同生活や楽しいけれど時には厳しい山の自然を体験させたことは無駄にはならないと思っています。

また、八方尾根で行われた長野冬季オリンピックでは、船木や原田の華麗なジャンプや、普通の人達では立つことも出来ない硬く凍ったコースをあつという間に滑り降りてしまふ滑降を、山荘を拠点に目のあたりを観戦出来たことは一生に何度も無い貴重な体験であり、すばらしい思い出になりました。

この、日本有数のスキー場である八方尾根の自然に恵まれた場所にある「黒菱山荘」は今手に入れようと思っても絶対に手に入らない、石神井高校の貴重な財産だと思います。もっとももっと多くの方々に利用して頂き、山小屋での楽しい生活を知って頂きたいと思えます。

『大切なもの』

平井麻子（五十回）

私は今春青山学院女子短期大学を卒業し、社会人としての一步を踏み出したばかりです。しかし今の会社に入るまでの苦勞は、並大抵のものではありませんでした。

私が就職活動を開始したのはちょうど1年前の3月。過去最低の就職難を記録したこの年は、採用数も少なく、私達リクルーターにとつてかなり厳しい現実が待ちうけていました。書類で落ち、試験で落ち、面接を何度も繰り返す毎日、何社と足を運んでも結果は思うようには出ません。ようやく手応えを感じたときにはすでに夏。希望していた会社からやっとの事で内定を

もらったのですが、ホッとしたのもつかの間、後日人数制限が理由で不採用という結果に終りました。経験した事のない挫折に、将来への不安。しかしこれを支えてくれたのは、やはり周りにいた友人でした。

二度目の内定が決まったのは卒業式5日前のことでした。私はその日、やっと思われたうれしさを胸に、短大時代ずつとお世話になった黒菱山荘へ最後の旅行に向かいました。山荘は私の学生時代にとつて切つても切り離せない存在です。私は高校を卒業してから約二年、山荘OGとして小屋の管理運営をしてきました。と言つても、その内一年は就職活動のためらくに手伝いもできず、仲間には迷惑ばかりかけてしまいました。にもかかわらず、この日はたくさんの方が山荘を訪れ、私のOGとして最後の卒業式をお祝いして下さいました。

思い返せば、ここに来て出会った人の何と多いことか。就職活動で苦しんだ時も、この山荘で知り合った人達から何度も励まされました。年が十以上離れた人も多いですが、みなさんは私をまるで妹のように接してくれました。気がねなく会話ができて、心許せて甘えられる人達が、ここにはたくさんいます。東京で張り詰めた環境の中にいた私にとっては、この山荘という場所が、人の温かさを感じられる天国のように思えました。学校ともサークルとも違ったもう一つの居場所を、山荘で見つけられた気がします。私はこの出会いを、一生大切にしていきたいと思っています。

今もし、就職や進学、その他悩み事など、大きな壁にぶつかっている人がいたら、一人で悩まず誰かに話してみてください。その人はきっとあなたの支えとなつてパワーを分けてくれると思います。諦めずにチャレンジしてみてください。（エラそうな事は言えませんが）少なくとも私は、後悔するくらいならやりたいことやっ、もっと自信を持てる自分になりたい、誰かの支えとなる人間になりたいと思っています。

私の大切なもの、それは掛替えない友人です。

同窓会黒菱ツアー

河野一枝（三十回）

同窓会誌「きずな」を読んで、特別企画のり、初めてお会いする先輩方と黒菱山荘へ行ってきました。在学中は願ひかなわず、運営のあれこれを「きずな」で読みつつ気になつておりましたが、やっと思現。楽しかったです。

同期を誘わなかったのですが、初めてとは思えない先輩方と、すっかり話に花が咲き、夜更けまでおしゃべりはつきませんでした。すばらしいロケーションの山荘からは、夕焼け、朝焼け、星空、白馬三山のぞみ、

ホールの机の彫り込みに過ぎし日の青春のページを思つたり、山荘委員会の泉水さんのおかげで、唐松岳頂上へも到達。温泉に小熊の出現に雷鳥の親子。OB石田さんのペンション「スカラ」の1泊。盛りだくさんの2泊3日でした。「スカラ」近くにジャンプ場があり、練習を見学したけど、高い、怖い。次は家族で、また同窓会で今度は白馬へ、同期をさそつて、あれこれ計画がうかびます。使う人が増えると山荘のいたみも少しは軽くなるようですし、あれだけの山荘を使わない手はありません。近くの大学の山荘は、建物こそまだきれいでしたが、使われなくなつたそうです。

思い出をお持ちの方もいらつしやるでしょう、ぜひ久しぶりに山荘を訪れて、初めての方も一度味わつてみてください。ひびきにこころのびのびと大自然とむきあいました。幹事の高橋ご夫妻、泉水さん、ありがとうございます。ご一緒できた先輩の皆様、楽しいひとときを共有できてうれしかったです。



黒菱山荘委員会から

昨年の「きずな」での特集のおかげもあり、この一年で山荘を訪れていただいた卒業生が前年より随分増加しました。延べ宿泊数は300泊にもなり、同窓生の利用が定着しております。

また、同窓会による夏山ツアー、PTAによる星を見る会、委員会主催の同窓生向けスキーツアーや生徒向け夏山ツアーの開催、スキー部現役生の利用など、一年を通じてさまざまな企画により毎回多数の方々がこの山荘を訪れることができました。この冬は例年になく大雪で、小屋も屋根などに多少ダメージを受けましたが、まだまだ黒菱山荘は現役です。委員会を中心に同窓生有志の協力でこの夏も維持・修繕活動を行う予定です。

それぞれの企画についてのご案内は、下記ホームページに随時掲載いたしますので、アクセスお待ちしております。

黒菱山荘委員会委員長 浦川伸一(高校32回)

<http://netpassport-wc.netpassport.or.jp/~wurakawa/>

黒菱山荘を利用しましょう

☆山荘の利用方法

山荘の管理は、黒菱山荘委員会が行っています。以下の利用規程についてご理解の上ご利用ください。

利用資格 石神井高校生(ただし保護者の同伴が必要)・PTA会員・同窓会員・教員・その同伴者

宿泊費 同窓会員 学生1200円
社会人1400円 会員外200円増し
*ただし冬季は暖房費用200円をいただきます

期間 基本的に制限をしていますが、山荘に不慣れな方は山荘管理者が入荘している期間の入荘をお勧めします。夏休みはお盆休み前後、年末年始2月から3月にかけては不定期です。

☆利用申し込みの手順

- ① 先ず大体の日程、人数等をお問い合わせ戴くことをお勧めします。
※連絡問い合わせ先 『黒菱山荘委員会 03-3385-8996(FAX共) 泉水まで』
当日の小屋番の有無、申込み状況、山荘概況等をお伝え出来ます。
- ② 所定の申込み書にてお申し込み下さい。
正確にお書き下さい。特に卒業生・一般の区分、社会人・学生の区分、宿泊日・日数等を明記下さい。
- ③ 申込みから1週間を目安に宿泊費を指定口座に入金して下さい。入金が確認されませんと現地で宿泊をお断りする場合がありますので御注意下さい。振込用紙の控えは、当日山荘で入荘時に小屋番が提示をお願いする場合がありますので、大切に保管の上当日携帯して下さい。
「指定口座 郵便貯金10130-5-5812331 都立石神井高校黒菱山荘委員会 浦川 伸一」
- ④ 申込書を受理し入金が確認されますと、折り返し『山荘利用のしおり』をお送りします。FAX連絡が可能な方にはFAXで、その他の方には郵送で少なくとも入荘1週間前までに送付します。万一期日までにお手元に届いていない場合は御連絡御確認下さい。



1999年度黒菱山荘ツアー やったね!の唐松岳山頂(2696m)で

2000年夏

ミレニアム・石神井高校創立60周年記念 特別企画
今年こそ「黒菱山荘」へ行こうツアー!!

同窓会の後援を得て、本年も下記ツアーを計画しましたので、友人、家族連れ、夫婦、一人旅等々、奮ってご参加下さい。(昨年は天候にも恵まれ大好評でした)黒菱山荘の現在を体験し、白馬山麓を散策しましょう。そして、山荘の今後を皆で考えてみませんか。

記

- * 2泊3日 第1日目 黒菱山荘(八方尾根、黒菱平)泊
第2日目 プチホテル「スカラ」(白馬村、OB経営)泊
- * 出発日 A班 7月20日(祝)~7月22日(土)
B班 7月21日(金)~7月23日(日)
- * 会費 JR特急コース 33,000円(JR特急あずさ利用)
エコノミーコース 23,000円(JR青春18きっぷ利用)
マイカーコース 18,000円(マイカーで現地)
- ◎2泊6食付 山荘・ペンション各1泊(1日目の屋食は各自弁)

*催行人員 各班 最大16名/計32名

*主な見どころ 八方池 石神井ケルン 唐松岳(注)大雪渓 利ビッパジャンプ台
(注)山荘委員会登山ガイドをA班の日程でお願いしてありますので、唐松岳にチャレンジしたい方は、A班にお申し込み下さい。

旅行条件

1. 山歩きの装備でご参加下さい。特に靴(はきなれたもの)、帽子、着替え、防寒具、洗面具、常備薬など
2. 山荘滞在中は、食事作り、掃除など共同作業、団体行動となりますので、ご理解とご協力をお願いします。
3. 部屋割りは幹事にお任せ願います。男女別の相部屋になることがあります。
4. 会費には個人的に消費するものは含まれておりません。
5. 集合場所、時刻、行程表、列車などはお申し込み後、詳しくご案内します。
6. 申込み人数によりA班B班を、調整させていただく場合がある事をご了承下さい。
7. お申し込みは6月17日まで(先着順とさせていただきます)。

お申込み/お問合わせ

〒176-0002 練馬区桜台4-11-2 高橋 一夫 TEL/FAX 03-3991-3586

石神井高校同窓会ホームページのご紹介

URLは <http://www.shakujii-club.gr.jp>

目次
ここに並んでいるボタンを押すと、それぞれの画面に切り替わります。

同窓会からの最新情報
文字通り、同窓会からの情報ページ。内容が迅速に変えられるといわれています。

校歌
校歌祭での合唱をインターネットの音声機能によって聞くことができます。石神井高校歌に加えて、府立14中の校歌も聞けます！

応援歌
体育祭の花の応援歌を聞くことができます

同窓会活動
同窓会活動の関連ニュースなど。校歌祭などの話題が掲載されます

同期会・O B会・支部会
同期会などの呼びかけを掲載するページです

「きずな」抄録
「きずな」のバックナンバーの掲載を準備中で

現在の石神井高校周辺
石神井高近辺のデジタルカメラによる写真集。すいぶん変わりましたよ

クラブハウス
クラブ単位の掲示板のコーナー。生物部や写真部などの掲示板があります。

石神井サロン
自由なテーマの掲示板。期別の掲示板などもあり、バーチャル同期会が盛んです

住所変更登録
「あの人はどこ？」の入力画面。自動的に登録できるので便利です。

会員のリンク集
同窓生の持っているホームページへリンクしています。もちろん、黒雲山荘委員会や石吹のページなどへも直行です



花の季節の特別トップ画面
(現在は違う絵柄です)



「あの人はどこ？」の入力画面



この画面で校歌が聞けます

同窓会のホームページも、試験運用から4年目を迎えて、ホームページを媒体とした交流にも役だてていただけるようになってきました。外觀は、管理者の忙しさによってマイナーチェンジでお茶を濁してありますが、内容については少しづつ進化しています。また同窓生が書き込みできる掲示板によって、クラブ単位

や同期のやりとりも始まっているようです。せつかくのメディアですから、皆さんの参加をいただきたいと思えます。今回は、パソコンを操作しない方にもホームページの内容を少しでもご理解いただくために、各項目の説明を付けてみました。でも、やっぱりホームページをどんどん覗いて参加していただくのが一番です！

泉会から問い合わせを受ける

「泉会」とは、お隣の大泉高校の同窓会組織です。ことに三十回生前後だと、学校群制で石神井・井草・大泉のどれかに機械的に振り分けられてしまったので、大泉に行きたかった石神井生(もちろんその逆も)も少なくなかったはずで、ともかく親近感のある高校です。その「泉会」の幹事の方から、石神井同窓会のホームページを参考にしたい、との申し出があり、乞われるままにサーバーの運用やらトラブル想定などについて僭越ながらレクチャーをさせていただきました。ほとんどの都立校同窓会ではまだホームページの運用は出来ていないようで、泉会と前後して都立豊島高校の同窓会からも同じような問い合わせを受けました。ホームページはうまく運用できれば同窓会の活性化に大いに役立つと思われまふ。また泉会をはじめ、他校の同窓会組織との交流の場にもなれば、また素晴らしいことではないかと思いました。

あの人はどこ？ キャンペーン

昨年より実施している、住所不明者を探すキャンペーンは、継続的に情報をお寄せいただき、その総数は一〇〇〇件を越えました。その中で、重複を除いたり、お知らせいただいた住所でも送達できない方を除き、二四〇名の方に先号の「きずな」を後追いでお届けすることができました。また、本年発行の名簿にも大いに役立つと思われまふ。情報をお寄せいただいた方々に感謝いたします。なお、本号では住所不明者の掲載はいたしませんでしたが、インターネットでは継続しておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

武蔵関公園スケッチ



何年かに1度、武蔵関公園で水を抜いて清掃します。今年がその年だったので、写真が寄せられましたので掲載しました。



あいかわすちよと読み
ついで泉会お呼びを
だます。今年にはしがぶ
つかりあってかなり苦し
かったです。どなたかきず
なの編集をお手伝いでも
いのでお願いします。

編集スタッフ
板谷方彦(二七回)
高橋一夫(二十回)
勝見錦代(別所)(二十回)
今井幸子(石患)(二七回)
小林美智子(石川)(二七回)
道家正昭(二二回)(写真提供)
編木村好(二四回)

同窓会誌「きずな」第四十九号

平成十二年五月発行

発行人 同窓会長 高橋 勇
発行所 都立石神井高校同窓会
東京都練馬区関町北

四の三十二の四十八
03(3929)0831

印刷所 株式会社文明社

東京都新宿区榎町七九番
03(3203)6617